

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

大阪大学

前期日程

科目

日本史

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

例年と同じく、200字程度の論述問題が4問出題された。

(Ⅰ)原始・古代、(Ⅱ)中世、(Ⅲ)近世、(Ⅳ)近現代という出題形式が定着しているが、今年度は2022年度(縄文時代の社会の特徴)以来、原始から出題された。近現代について、昨年度にみられた現代を含む出題(2008年度以来)はなかった。分野では社会経済を中心とした出題が多かった。

なお、過去には受験生にとって盲点・高校教科書で明記されていない点を問う問題や、受験生が苦手とするテーマが出題されており、どの時代も手を抜かず丁寧な学習を積み重ねる必要がある。

〈特記事項・トピックス〉

昨年度につづき、(Ⅳ)では歴史総合を意識した出題であったが、日本史探究の学習を丁寧にしていれば問題はない。

〈合格への学習対策〉

高校教科書の学習を徹底しよう。教科書の知識を確実に身につけ、文章化することができれば、合格点が期待できる。細かい用語暗記に終始せず、各時代の特徴や因果関係に注意した学習を心がけたい。また、阪大の過去問を中心に、教科書を利用しながら文章化する練習を積んでほしい。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
(Ⅰ)	論述	弥生文化における生業や技術の特徴	縄文文化を簡潔に説明し、弥生文化の生業と技術の特徴を述べる。その際、生業と技術について、同じウエイトで説明できたかがポイントとなる。弥生文化の成立時期を示し、広がる過程を説明した上で、北海道と南西諸島では続縄文文化・貝塚文化とよばれる食料採取経済が続いていることを説明したい。	標準
(Ⅱ)	論述	院政期における荘園の特徴	院政期の荘園の特徴については、ひとまとまりの領域をもち、国衙の支配から独立していた点をまとめたい。荘園の成立過程について、寄進だけでなく立荘も説明できたかがポイントとなる。荘園経営のあり方に関しては簡潔に説明したい。	やや難
(Ⅲ)	論述	元禄期の貨幣改鋳政策	背景については、財政難に焦点をあてて支出と収入の両面に目配りして説明する。あるいは経済の発展による貨幣需要の拡大を説明してもよい。貨幣改鋳の政策内容については、慶長金銀よりも品位を下げたことで生じる差額によって収益をあげたことを説明したい。結果については、物価騰貴について丁寧に説明しておきたい。	標準
(Ⅳ)	論述	幕末の条約締結と明治政府による条約改正交渉	「カピチュレーション」の知識が問われているわけではないことに注意したい。受験生は戸惑ったと思うが、設問文から安政の五カ国条約が問われていると判断したい。内容について、居留地における自由貿易、領事裁判権や協定関税制を認めたことを説明する。そして、明治政府が不平等と認識し、明治時代を通じて改正交渉を行ったことを段階的にまとめたい。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。